

車掌をはじめ駅係員の対応だけでは 駆け込み乗車はなくなるならない！

列車の運行を妨げる悪質な駆け込み乗車防止するためのあらゆる対策の実施を

JR東海労名古屋地本は、頻発する駆け込み乗車を防止するためJR東海会社に対し、申5号「ホーム場の安全に関する申し入れ」をしました。

これまで、車内放送をはじめ、ポスターなどを活用しかけ込み乗車の危険性を訴えて来ましたが、しかし駆け込み乗車はなくなりません。最近では発車直前にもかか

わらず列車に近づいたり、閉まりかけた扉に傘や、カバンなどを挟むなど悪質な行為も見受けられます

東海旅客鉄道株式会社
東海鉄道事業本部
本部長 勝治 秀行 殿

JR東海労名古屋地本申5号
2015年11月17日

JR東海労働組合名古屋地方本部
執行委員長 山田 哲也

ホーム場の安全に関する申し入れについて

列車の発車間際の駆け込み乗車防止に対して、これまで、車内放送、ポスターなどで列車遅れの原因になることやドア挟みの危険性については啓蒙を行って来ている。しかし、マナーの向上は一向に見られず、一向に駆け込み乗車は減らない状態である。むしろ発車間際に黄線の中に入ってくる旅客も見られる。ケガや列車遅延は関係ない、駆け込みを乗せないJRが悪いと言わなければならない。このような現状の中では、いくら車掌が防止に向けてがんばっても駆け込み乗車は減らないと考える。しかし、事故があると現場では車掌のみが責任を問われている。

駆け込み乗車に対して抜本的な対策を講じるとともに、マナーの悪化した旅客に対して、列車運行妨害に当たることなどを啓蒙することにより防止策を講じる必要があると考える。早急に業務委員会を開催すること。

記

1. これまで駆け込み乗車防止に向けて講じてきた対策を全て明らかにすること。
2. 駆け込み乗車に対する迷惑行為をアレビスポット、及びJR東海HPで行うこと。
3. 駆け込み乗車防止の放送文例を車掌と一緒に考えること。
4. ホームに駅員を配置すること。
5. 駆け込み乗車が出来ないようにホームドアを設置すること。
6. 事故が発生した場合、乗務員に責任を転嫁しないこと。

以上

旅客のモラル向上も必要

これまでドア挟み事象が発生すればまず車掌の責任が問われています。これまでの車掌のみの注意力では限界があります。列車の運行に影響する、悪質な駆け込み乗車は列車妨害に匹敵します。会社は防止策をソフト、ハード両面から考えるべきです。

私たち旅客自身のモラルにも訴えることも必要だと思います。

JR東海労名古屋地本「申5号」